秋田高校同窓会だより

AKITA HIGH SCHOOL alumni association news

Vol.120



令和8年度通常総会　同窓生と秋田のつながりを強く
全国高校総合文化祭　弁論部門で最優秀賞受賞
若菜会　新会長に菊地えり子さん
交差点　なまはげの里　フィロソフィ　菅原　広二
Essay　秋田の町について思うこと　山梨絵美子
ZOOM UP　看護管理者を支える事業　高橋奈央子
福井県副知事に就任　大瀧　洋
地球と宇宙をつなぐロマン　佐藤　峰南
南極観測隊同行取材　大久保瑠衣
School Topics　文武両道　柔道部13年ぶり全県優勝
卓球部11大会ぶり全県優勝

秋田県立秋田高等学校　●学校創立　明治6年（1873年）9月1日
●卒業生総数／40,503人（旧制中学7,080人、新制高校33,423人）　●在籍生徒数／801人（男子450人、女子351人）
●同窓会員数／40,966人　●物故者／11,680人　●現会員数／29,071人　［令和８年10月16日現在］
●ホームページ　https://akitahs-doso.jp　●E-mail　aki-doso@cna.ne.jp

令和8年度通常総会

同窓生と秋田のつながりを強く



秋田高校同窓会は、6月21日、秋田キャッスルホテルで令和8年度通常総会を開催。同窓生や教職員ら129人が出席した。

銭谷眞美会長は「同窓会の創立111周年、高校授業料無償化の実現で、学費の面で公立私立の区別なく通えることになった。一方で、統合、廃校、定員の縮減が予想されており、教育の前途は厳しい時代を迎える。戦後の経済成長、豊かな国の背景には教育の普及がある。同窓生と秋田のつながりを強くし、さらに会員の親睦、母校の応援を強くして郷土の創生に資する。経済的な豊かさでなく、一人一人の心の豊かさが必要。心豊かな国を作ろう」と挨拶。

庫山徹校長は、6年目となる生徒のアメリカ研修事業・北雄の翼、同窓会からの支援に感謝するとともに、運動部や文化部等県大会、全国大会での活躍を報告。「少子化が進む中、伝統を引き継いで、変化に対応していかなければならない。県内外から秋田高校で学びたいという、目標となる学校になれるようにしたい」と述べた。

続いて議事に移り、同窓会事務局及び各常置委員会・特別委員会から前年度の決算・事業及び令和8年度の事業計画・予算案が報告され、原案通り承認した。

□企画委員会
教育振興基金の充実、在校生研修事業支援、秋高祭でホームカミングデーの開催

□財政委員会
会費納入方法の多様化対策
口座自動振替やスマホ決済アプリの利用とオンライン納付の利用

□広報委員会
新体制　全員新任・輪番制

□名簿委員会
会員情報管理システム更新
名簿関係機能の整備、名簿未判明者の減少に努める

□ホームページ委員会
HPから年会費徴収オンライン決済システムの導入

□郷土創生委員会
学食の利用促進策の検討と実行、新プロジェクト立案

この後、参加した会員から、「郷土創生委員会の新しいプロジェクトがあれば教えてほしい」。「会費納入が厳しくなる中、財源への見通しが甘い。一般の理解を得るために、繰越金を増やすべき」との意見があり、それぞれ「OBでファンドを形成し地元の企業を応援するしくみ等を考えている」。（郷土創生委員長）。「会費納入する会員をひとりでも多く増やすよう努力したい。会費納入や予算について忌憚のない意見を財政委員会、事務局へお寄せいただきたい」（事務局長）と説明した。

役員改選で、全員の再任が承認されたほか、事務局から令和10年度まで3年間の顧問・参与、常任理事の委嘱について報告された。

総会後の記念講演は、文部科学省高等教育局参事官、佐藤邦明さん（平成2年卒）が「多文化共生社会と日本人・秋田人～教育の視点から考える～」の演題で講演。



記念講演　佐藤邦明氏（平成２年卒）

佐藤氏は「秋田という地域も教育を通じて大きな転換点を迎えている。多文化共生は特別なことではなく、地域の歴史や文化を理解しながら、外から来る人々と共に社会をつくること」と強調した。

※通常総会の記念講演を同窓会ホームページ「本部からのお知らせ」で全編90分公開しています。

天上 TENJO TENGE 天下

歌を好きになる理由は、歌詞とメロディライン、そして、聴いた当時の出来事であろう。口ずさむうちに、ハッとその歌詞の意味を自らの人生に照らし合わせて驚いたこともある。

入学間もない洗礼。旧制中学バンカラの名残を残す学ラン姿の応援団幹部数名が竹刀を持って教室に現れた。教卓に立ち、怒号を浴びせ、凄みを利かせる。あの校歌練習と応援団の迫力ある指導は戦慄の記憶である。

今回の連載企画執筆者2名が校歌の一節を綴った。人生訓として刻まれていた。校歌は学校の教育哲学を凝縮したもの。明治5年の「学制」から、日本の学校教育に入ってきたのは国や郷土への愛情を育むことを目指したという。

「わが生わが世の天職」「己を修めて世のため尽くす」。この目に見えないものの存在は、誇り高い伝統のひとつだ。同窓生の人生まで左右する無限の輝きを放つ。さて、あの校歌指導はどう受け継がれているのか。

記念講演 要旨

多文化共生社会と日本人・秋田人

～教育の視点から考える～

佐藤 邦明　文部科学省高等教育局参事官（平成2年卒）

ミネソタ州立大秋田校の第一期生として進学、米国留学。英語教育はレベル管理に基づくフェアなシステムで、努力が成果に直結。「行かなくても卒業できる」日本の大学文化との差を実感した。

秋田県庁では国際教養大の設立準備・運営に従事。難産のプロジェクトとして政治問題化・予算否決などの出発点から、中嶋嶺雄初代学長の下で、1年留学義務化・全授業英語化・リベラルアーツを徹底し、日本の高等教育に大きな影響を与えた。

現在3100名超の卒業生が国内外で活躍し、秋田の知的インフラとして人材・ネットワークを構築するまで成長した。また、水野勇気氏のプロスポーツ創業など「価値創造」人材を輩出している。

文部科学省転籍後、高等教育改革を推進。本省勤務に加え、東北大学副学長など大学現場でアカデミアの矜持に触れ、3年間務めたOECD高等教育専門家会合議長を通じて改めて世界との協調の重要性を感じる。現在、参事官として高等教育の国際分野を担当し、外国人受け入れの質向上と社会的適応の両立を重視している。

原点は秋田高校の「自主自立」の校風や自由な学び。米国大本校での学びを通じた衝撃・体感・成長の反復、文化的アイデンティティの問い直しが、後の政策実務と国際的視座獲得の基盤となった。

日本の18歳人口の激減、県内の大学進学者数低下等、秋田も教育を通じて大きな転換点を迎えている。秋田県民歌の精神（人材育成・理想・平和）を行動へ転化し、高度人材育成、全県民へ学び直し機会の提供等「知の総和」を引き上げる取組が求められる。

外国人材の獲得と共生、キャンパスの国際化、国内留学受け入れの推進による、地域と国の双方で即時着手可能なアクションを示し、大学を核とした投資・イノベーションの循環を秋田から仕掛けるグランドデザインを提案した。

本題の多文化共生社会については「日本でも外国人住民が増え、地域社会のあり方が問われている。国籍・文化・価値観の異なる人々を受け入れる柔軟性が必要。地域の歴史や文化を理解し、互いを尊重しながら共に暮らす社会をつくること」を強調。

講演では、長年のキャリアを軸に、教育の視点から、異文化理解の重要性、日米の教育システムの違い、地方創生における大学の役割、日本の研究力・国際競争力の課題、そして秋田の知的インフラとしての大学をはじめとする高等教育機関の意義を総合的に論じた。

プロフィール

さとう くにあき/文部科学省高等教育局参事官。1971年秋田市生まれ　ミネソタ州立大学秋田校一期生・マンケート校卒。東京大学教育学研究科博士前期課程修了。96年秋田県庁入庁。国際教養大の設立準備に携わる。09年文部科学省転籍。高等教育改革を推進。24年より現職。

令和７年度　一般会計　決算報告書

〈収入の部〕　（単位：千円）

項　目	予算額	決算額	増　減
入会金	2,421	2,394	△ 27
会　費	11,000	11,042	42
協賛広告費	440	395	△ 45
会議収入	1,400	1,209	△ 191
雑収入	343	313	△ 30
繰入金	4,300	4,136	△ 164
繰越金	7,396	7,396	0
収入合計	27,300	26,885	△ 415

〈支出の部〕　（単位：千円）

項　目	予算額	決算額	増　減
事業費	12,300	11,110	△ 1,190
だより発行費	2,900	2,913	13
母校協力費	1,250	1,255	5
新入会員歓迎費	950	876	△ 74
年次強化費	100	83	△ 17
ホームページ維持費	780	109	△ 670
管理システム整備費	5,000	4,626	△ 374
資料室運営費	230	196	△ 34
広告費	90	66	△ 24
羽城館維持管理費	1,000	985	△ 15
会議費	3,100	2,938	△ 162
総会費	1,550	1,526	△ 24
運営委員会費	800	616	△ 184
委員会費	450	485	35
支部関係費	300	311	11
事務費	9,320	9,209	△ 111
給料・手当	3,200	3,162	△ 38
消耗品費	240	236	△ 4
印刷費	10	12	2
通信費	4,200	4,125	△ 75
手数料	900	907	7
機器運営費	270	245	△ 25
旅費・交通費	500	521	21
基金	0	0	0
同窓会基金	0	0	0
雑費	80	25	△ 55
慶弔費	50	23	△ 27
雑費	30	2	△ 28
予備費	2,500	0	△ 2,500
予備費	2,500	0	△ 2,500
支出合計	27,300	23,281	△ 4,019

『一般会計 決算・予算』概要説明

①令和７年度決算	
収入	・会費収入は前年比100名増予算額を確保 ・基金会計から400万円を繰り入れ、物価上昇分への対応、母校生徒支援の増額、築30年以上経過した同窓会館の施設整備に充当
支出	・管理システム整備費は、(150周年事業予算を繰越)入札実施、ハードを含め更新 ・羽城館維持管理費は、1階会議室冷暖房設備を更新

令和８年度　一般会計　予算書

〈収入の部〕　（単位：千円）

項　目	予算額	前年度予算額	増　減
入会金	2,421	2,421	0
会　費	11,200	11,000	200
協賛広告費	440	440	0
会議収入	1,400	1,400	0
雑収入	335	343	△ 8
繰入金	4,300	4,300	0
繰越金	3,604	7,396	△ 3,792
収入合計	23,700	27,300	△ 3,600

〈支出の部〕　（単位：千円）

項　目	予算額	前年度予算額	増　減
事業費	8,460	12,300	△ 3,840
だより発行費	3,100	2,900	200
母校協力費	1,300	1,250	50
新入会員歓迎費	1,000	950	50
年次強化費	100	100	0
ホームページ維持費	600	780	△ 180
管理システム整備費	250	5,000	△ 4,750
資料室運営費	220	230	△ 10
広告費	90	90	0
羽城館維持管理費	1,800	1,000	800
会議費	2,950	3,100	△ 150
総会費	1,650	1,550	100
運営委員会費	700	800	△ 100
委員会費	300	450	△ 150
支部関係費	300	300	0
事務費	9,810	9,320	490
給料・手当	3,400	3,200	200
消耗品費	260	240	20
印刷費	10	10	0
通信費	4,400	4,200	200
手数料	910	900	10
機器運営費	280	270	10
旅費・交通費	550	500	50
基金	0	0	0
同窓会基金	0	0	0
雑費	80	80	0
慶弔費	50	50	0
雑費	30	30	0
予備費	2,400	2,500	△ 100
予備費	2,400	2,500	△ 100
支出合計	23,700	27,300	△ 3,600

『一般会計 決算・予算』概要説明

②令和８年度予算	
収入	・会費収入は７年度予算を達成したので、８年度はさらに100名20万円増を目指す。 ・前年同様基金会計から400万円を繰り入れ、物価上昇分への対応、同窓会館の施設整備に充当
支出	・支出の各項目で物価上昇が見込まれるものは５～10%増とする。 ・羽城館維持管理費は、トイレの改修、照明のLED化、玄関雨樋の改修など。

弁論部門で最優秀賞受賞
第50回全国高校総合文化祭

“伝えたい”という想いを力に

2年F組　青池（あおいけ）　美依（みい）

「言い間違いをしない完璧さより、言葉に詰まっても伝え続ける気概」これは本大会で私が最も意識したことの一つです。この弁論への姿勢は本番までの努力が教えてくれました。

弁論とは自分の意見を7分間という限られた時間で伝えるという競技であり、言葉の力が試されます。独創的で飽きないテーマ・内容と、伝えたいことを明確にして話す表現力の両方が求められ、練習では大いに苦戦しました。

何度も話し方を修正し、台本の推敲を繰り返すという作業の連続で、数を重ねるほど迷走し苦しんだ当時の心情を、今でもはっきりと思い起こせるほどです。また、「完璧に話したい」という思いが先行し、言い間違いや速度、抑揚の一つひとつを意識するあまり、いつしか「何を伝えたいのか」よりも「どう話すか」に意識が向いてしまうこともありました。それでも諦めずに「伝える」ことに重きを置き続け、良い弁論を求める姿勢が最優秀賞受賞に繋がったのだと考えています。

この結果から私は、たった一人の「伝えたい」という小さな想いは万人の心に響くことがあるということを、身をもって学びました。想いは言葉となり、伝播していく。弁論だけではなく、バンド活動を通して思いを届けている人間としても大切なものを得ることができました。

最後に、指導してくださった先生方、応援してくれた家族や友人への感謝の気持ちと「伝える」ことの力の大きさを忘れず更なる成長を目指します。ありがとうございました。



総文祭宣伝にひと役

前回の秋田大会で初代生徒会実行委員長　吉田　武志（昭和57年卒）

「よくぞ頑張った」この一言であろう。周到な準備と生き生きとした高校生の活動が何よりであった。

ところで自分は思いがけぬ講演や新聞、テレビ局等の取材を受けた。報道後、数人から電話等の連絡をいただいたが、共通して言われたことは「45年前に総文祭があったことを知らなかった」ということだ。

総文祭の宣伝に一役買ったことはもちろんだが、多くの方に当時を振り返ってもらう機会となったようだ。昔話で終わらず自ら振り返り、これからも元気に生きていこうとすることにつながっていたらと思う。

考えや思いを現実に行使することで生きがいにつながると感じた。次の開催の頃にはどんな発展が見られるか。期待は膨らむ。１００歳を超えていると思うが。

「若菜会」通常総会
新会長に菊地えり子さん

若菜会は令和8年度通常総会を7月20日秋田拠点センターALVEにて開催した。

運営委員の改選が行われ、新生若菜会発足以来会長を務めてこられた高橋裕子さん（昭和31年卒）が退任、新会長に菊地えり子さん（昭和45年卒・前副会長）を選出した。高橋今日子さん（平成11年卒、東京大学客員共同研究員）が「心豊かな人生へのヒント～これまでのウェルビーイング研究の知見から」と演題で講演。

今回は一般からの参加もあり、グループディスカッションを交えて、性別や世代を超えた有意義な会となった。

（昭和52年卒　加藤史子記）



若菜会総会

家族葬の心の花
ハッピー・ライン株式会社
代表取締役　東海林大心
（平成9年卒）
［家族葬ホール］
家族葬のおうち　心の花
家族のつどい　静庵外旭川
家族のつどい　静庵牛島

人生を娯楽に
ファイオン株式会社
多言語ナレーション・動画制作
オンライン配信サポート
代表
北嶋友暁／Matirog（マティログ）
（平成9年卒）
Tel: 050-1809-5264
〒011-0911 秋田市飯島字大袋201-3
mail: info@phiomn.com
https://phiomn.com

医療法人 夢花会
ハートケアクリニックおおまち
秋田市大町の心療内科・精神科
診療時間　月 火 水 木 金 土 日/祝
9:30-12:30　● × ● ● ● ● ×
14:30-17:30　● × ♡ ● ● × ×
※♡：水曜日は14:30～18:30
院長 菊池 結花
018-853-0180
https://heartcare-omachi.jp
秋田市大町1-2-7（サン・パティオ大町）

～社会福祉法人の会計監査、M&A～
Satoru Kamiya Accounting Office
神谷了公認会計士事務所
所　長　神谷　了
（平成9年卒）
事務局長　持主 健直
（平成9年卒）
〒102-0084
東京都千代田区二番町1-2
番町ハイム313
03-6205-6467

校舎

なまはげの里フィロソフィ

菅原 広二（昭和45年卒）

秋高時代

入学してすぐにラグビー部に入った。秋高が初めて花園に出場した年で、30数名もの新入生がおり「紅白戦ができるようになった」と監督が喜んだ。春の大会で初めての秋工戦。試合前の練習で工業の選手は、高々とボールを蹴る、膝が胸に付くほど腿を上げて走る、そして「トライ！」と大きな声を上げて飛び込む。この光景に驚いた。

秋高はまともにキックができる者は1人か2人。トライの練習をしたことがないから、インゴールノックオンする者もいた。ところが試合になると、秋高は強い。スクラムさえ押されなければ、バックスの展開ラグビーで勝てた。私は中学で相撲をやっていたのでスクラムだけは強かった。入部してすぐ、フロントローで正選手になった。

この年、花園に2年連続出場し、1回戦で熊工に圧勝。2回戦強豪大分舞鶴を圧倒した。この時、監督が「相手は前三人に自信があった、それが押せなかったのでリズムが崩れた。いいスクラムだった」と褒めてくれた。3回戦、マスコミなどの戦前の予想を覆し、優勝した福岡電波に圧倒された。最近、2年上級で神のような存在だった進藤孝生さんが「あの時、どうして負けたんだろう。負ける相手でなかった！」と暫く考えてから「秋高は、ガフェ（持久力）がなかった！」と、大笑いした。確かに一時間練習では厳しい試合の連続で足にガタが来ていたのかもしれない。



昭和43年1月　第47回全国大会
2回戦大分舞鶴戦で会心のスクラム。
3番フロントローとして活躍。

2年の時は、工業が圧倒的に強く全国優勝した。それでも、いい試合をしていた。3年の時、全国優勝を狙って練習に励んだが、主将である私の力不足で、監督・後輩を花園に連れて行くことはできなかった。

私は、諦めの悪い男なので、何年も「再試合の夢」を見たり、「花園の本戦まで時間がない、練習しないといけない」とあせったり、ラグビーをしたことを後悔したりした。「よき敗者たれ！」の言葉をもっと早く知りたかったものだ。

年を重ねるごとに、たった3年間だったが、よき先輩後輩に恵まれた秋高生だったことに感謝している。授業中よく居眠りをしても、休み時間の15分に凝縮して教えてくれる優秀な友達がいた事など思い出される。

現在、男鹿市長として

挨拶をする時に冒頭で「ナマハゲの里、男鹿市長の菅原広二です」と、必ず言うようにしている。男鹿を読めない人が結構いるし、ナマハゲは秋田県全体でやっている行事だと思っている人が多い。

私は男鹿が好きで郷土愛だけは誰にも負けない。そして、この素晴らしい魅力のある男鹿を発信し、多くの人に訪ねていただき、幸せになって貰いたい。そのことによって市民が幸せになると思っている。

男鹿は「景色よし、食よし、ナマハゲよし」。しかし「一番いいのはおもてなしの心」と言われるようになりたい。男鹿の美しい景観は大自然が創ったもの。男鹿のナマハゲは、親祖先が伝えてくれた。そして、今を生きる私たちは子々孫々に、何かを遺していきたい。それが「なまはげの里フィロソフィ」だと思っている。

「ナマハゲは、鬼ではなく神である！」私たちを何時もお山の上から見守ってくれている。「悪いことはするな！誠実に生きろ！」と、人間としての原点を諭してくれる。

これは、秋高ラグビー部での教えに似ている。「ラグビーは、人を創るスポーツ」であり、審判が見ていなくても「ルールは自分が守る」というものである。このことは「誰が見ていなくても悪いことはしない」という「ナマハゲの教え」と同じである。

「三つ子の魂百まで」幼児から小学校・中学校まで人間力（非認知能力）を高めていきたい。「優しさ・思いやり・明るさ・誠実さ・忍耐力」など、一生使える非認知能力が大事である。

子どもたちだけでなく、市民にも広めていき、郷土愛をもった、幸せな男鹿市民になって貰いたいと願うこの頃である。



すがわら・こうじ/男鹿市長。男鹿市生まれ。日本大学理工学部卒。株式会社寒風・代表取締役副社長、秋田県議会議員を経て、2017年4月より現職（3期目）。脇本中学在学中は相撲部に所属し、全県選抜相撲大会個人優勝。秋田高校ラグビー部では1年時に花園に出場。3年時はキャプテンとしてチームを牽引。現在は市長として「ふるさと男鹿」の発展のため日々奮闘している。

UP!

海外医療ドラマの世界から、再び秋田へ

高橋 奈央子（平成10年卒）

国際看護師を目指し、2008年にオーストラリアへ。きっかけは米国ドラマ「ER 救急救命室」。しかし、挑戦の先には、想像をはるかに超え、リアルで緊迫した世界の医療現場が待っていました。

そんな日常を発信するうちに、日本で疲弊するナースから相談を受けるようになり、改革を意識するようになったのです。

そこでまず、紆余曲折ありながらもオーストラリアでキャリアアップを果たし、数々のプロジェクトで現場の課題に挑みました。その過程では、私自身も病みかけるほどの困難に何度もぶつかりました。この経験を日本のナースに還元したい。そんな思いから2019年、看護管理者を支えるオンライン事業を立ち上げたのです。

そこから7年で積み上げた実績は、残業の大幅削減、離職率の改善、看護管理職の満足度向上など様々です。

かくして、日本の医療現場を改革することこそが「わが生の天職」と確信。昨年11月に秋田へ移住して会社を設立しました。

現在は、看護管理者への研修会・講演会、法人向けには人材定着を目的とした組織構築支援のために、全国を飛び回っています。目指すのは、看護・医療業界の改革を通じて、地元秋田を豊かにできる企業に育てることです。

そんな大きな目標に向かって、「敬天愛人 理想を高く、おのれを修めて世のためにつくす」。

皆さま、応援よろしくお願いいたします。そして、医療・介護の現場で人材採用や定着にお悩みの方、秋高愛を語りながら、ぜひ一度お話を聞かせてください。



たかはし・なおこ／株式会社ナースアップ代表取締役。秋田大学医療技術短期大学部看護学科卒。グリフィス大学看護学士取得。シドニー工科大学ヘルスサービスマネジメント修士課程単位取得。シドニーの公立病院でナーススペシャリスト・管理職として15年勤務。2025年に夫とともに秋田へ移住。経営者・管理者の情熱を発信し、求心力のある組織づくり支援が得意。

わが生わが世の天職いかに

大瀧 洋（平成11年卒）

総務省に入省し、5度目の地方赴任、令和8年7月から福井県の副知事に就任した。県の政策に幅広く関わり、これまでの地方での経験、国での経験やネットワークなどを駆使して、全力で県政発展に努める。

校歌の2番の歌詞を思い出す。「わが生わが世の天職いかに」。国家公務員として、少しでも地域のため世のために貢献できるのであれば大変光栄だが、立ちはだかる課題・人口減少は非常に厳しい。

日本の人口のピークは2008年で約25年後の2050年には1億400万人ほどになる。この数字は日本全体だが秋田県の総人口のピークは1980年。2050年には約56万人と推計され日本全体より遥かに減少ペースは早い。

また、これまでの25年間の出生数の変化に着目すると、日本全体では119万人（2000年）が67万人（2025年）と約4割の減少。同期間で比較すると、秋田県は9007人が3131人。個別の地域だと、秋田市は2724人が1284人、由利本荘市は703人が262人、五城目町は81人が13人という状況である。

将来、行政機能、生活や福祉のサービス、産業を支える人材をどう確保していくのか。現状でも人手不足に悩んでいるが、まだ“まし”なのである。出生率の向上などに加え、AI活用やDX、大規模化、集約化等省力化・効率化などのために必要なものを取り込むことに躊躇している余裕はないだろう。

厳しい現状の打破は困難だが、頑張っていくしかない。人の歩みを止めるのは、「絶望」ではない、「諦め」なのだから。



おおたき・ひろし/福井県副知事。由利本荘市生まれ。東京大学工学部都市工学科卒。03年総務省に入省。地方自治体への赴任（高知県、千葉県印西市、京都市、山形県）、内閣府での地方創生関係業務などに従事。総務省で過疎対策室長を務め、過疎地域の支援を担当した後、内閣官房で地方創生の基本構想、地域未来戦略に携わる。 今年7月より現職。

ZOOM

たった一枚の地層を探して

佐藤 峰南（平成18年卒）

秋田高校を卒業後、天文学を学ぶために鹿児島大学へ進学。そこで「地層中から宇宙塵を取り出す」という研究を知り、地層を通して宇宙を読み解くという発想に衝撃を受けて地質学の道に進みました。約二億年前の天体衝突の証拠を岐阜県坂祝町の地層中から発見して以来、巨大な天体衝突と、それに伴う生物絶滅・環境変動を読み解く研究を続けています。

研究では、クレーターが報告されている時代の地層が露出する国内外の場所に出かけ、何mも続く地層から、天体衝突によってできた「たった一枚の地層」を探します。ロマンがある一方、何も見つからず、悩む時期もありました。

転機となったのは、6600万年前の巨大天体衝突クレーターを掘削する国際プロジェクトへの参加です。異分野の研究者との議論を通じ、「天体衝突」が生命の進化へと繋がる大きな研究分野であることを知りました。近年は、衝突によって生じた海底下の熱水が、絶滅後の生物活動に関わった可能性も見えてきています。

博士号取得後は任期付きの職を転々とし、コロナ禍には国内で職を見つけられず、一年半をイタリアで過ごしました。それでも、受け入れてくださった先生に励まされ、ここまで続けてこられたと思います。

研究で行き詰まった時、私を前に進めてくれたのは、人との出会いと視野を広げることでした。秋田には豊かな自然や鉱山など、地球科学の教材となるものがたくさんあります。これからも学生たちと研究を続けながら、地学の魅力や、地球と宇宙を繋ぐロマンを少しでも多くの人に伝えていきたいと思います。



さとう・ほなみ／九州大学理学研究院地球惑星科学部門助教。鹿児島大学修士課程修了後、九州大学博士後期課程へ進学し、博士（理学）取得。2022年4月より現職。岐阜県での調査で巨大隕石衝突の証拠を世界で初めて発見し、2015年3月、日本学術振興会育志賞受賞。質量分析による天体衝突の地球化学的証拠の検出法を確立し、「どんな天体衝突の研究もできるラボ」を目指して研究中。

「南極で仕事」、気づけばそこには…

大久保 瑠衣（平成14年卒）

「南極で仕事をしたって言えるの、かっこいいかも」。日本の南極観測隊同行取材に秋田魁新報社が手を挙げ、社内で記者を募ったとき最初にそう思った。ただ動機としてはミーハーで薄い。記者経験は浅く、末端冷え性。そんな私に南極行きを勧めてくれたのが、第51次隊に同行した先輩記者の安藤伸一さん（昭和63年卒）。カメラ記者の私に「南極の今を記録として残すのは会社の財産。しっかり撮ることが大切」と言葉をくれた。

昭和基地に到着すると、思いがけず「秋高」が目に飛び込んだ。前年度から滞在する越冬隊に「秋田高校陸上部」と書かれたジャージ姿の隊員がいたのだ。気象庁から参加の齋藤樹隊員（平成25年卒）だ。日本から約1万4千キロ離れ、どこの国にも属さない特別な場所で、母校「秋高」を背負って活動する姿を見て、誇らしさが込み上げた。

4カ月間、南極での集団生活。逃げも隠れもできない状況を楽しめたのは、高校時代の硬式野球部マネジャー経験があってこそ。試合や合宿を通して先生方や保護者と深く関わった時間が、多様な世代と協働する今の土台にある。

観測船「しらせ」や昭和基地の宿舎で二段ベッドに寝泊まりする生活も、合宿での天上館のマネ部屋や研修会館と似たようなものだった。

食事、生活、景色…。未知の世界のリアルな記録は、さきがけ電子版「南極ログ」で発信しており、地図から記事をたどれます。写真展等（各地で開催中）、南極関連のオファーもお待ちしています。

南極log



おおくぼ・るい/秋田魁新報社統合編集本部報道センター・写真映像グループ長。弘前大学人文学部卒。06年秋田魁新報社入社。営業部などを経て18年デジタル部配属、カメラ記者に。同年の甲子園で準優勝の金足農業高を1回戦から決勝まで現地で撮影。第66次南極観測隊同行取材（24年12月～25年4月）。秋高野球部を甲子園で撮影できる日を心待ちにしている。

国内外、各分野で活躍する同窓生の情報をお寄せください ➡ E-mail:aki-doso@cna.ne.jp

昭和47年卒同期会

令和8年7月17日（金）秋田キャッスルホテルで関根浩一君の瑞宝双光章受章を祝う会が開催され、同期のクラスメイトやゴルフ仲間など20名が集いました。発起人の木元慎一君が挨拶し、「秋田県庁職員として産業労働部での功績や退職後の産業界に貢献してきたことを評価いただいたもの」と紹介がありました。続いて一昨年叙勲を受けた千葉豊明君が乾杯し和やかな宴がスタートしました。友人のスピーチでは、山王中学時代のバスケットボール部での活躍が披露され、更に参加者の高校時代の写真がスクリーンに映し出され大いに盛り上がりました。（小松 文男 記）



昭和49年卒同期会

49卒同期会は、一昨年の「古希を祝う会&卒業50周年記念同期会」を機に、毎年開催することとし、今年は8月8日、協働大町ビルを会場に43名が参加した。

小林和世さんから「様々な機会・出会いを一つ一つ取りこぼさず、限りある人生を大切に過ごしましょう。今日の再会に深く感謝して乾杯!」との発声で開宴。久しぶりの参加者の近況報告や、東京同期会「秋友会」と南東北同期会「仙秋会」の幹事からは、参加の呼びかけがあった。

紫色の学生服姿で登場した荘司裕さんのリードで声高らかに校歌斉唱。小泉ひろみさんの中締めの後、同ビル1階の『魚河岸』の二次会には、30名が参加。一次会は3年次、二次会は1年次のクラス単位でテーブルを囲み、さらに旧交を温めた。会話が弾み別れがたい気持ちを抑えつつ、健康でまた会おうと次回の再会を固く誓い、小玉真一郎さんの三本締めで散会した。（佐藤 悦紹 記）



昭和41年卒同期会

『汝何の為にそこに在りや』を、3年間生でシャワーを浴びた我々S41卒生も傘寿の節目を迎えることに相成りました。その鈴木スフィンクス健次郎校長の問いに、はたして有効なる答えを返してこられたものかしら。

550名の卒業生から、その人生の難問模索サバイバー35名が集いました。会長川村氏は挨拶で、この1年間に逝去された同期生を紹介。皆、黙祷。校歌リードは紫紺の会前会長川合氏で、流石シマルーっ。最遠来大阪鈴木氏の宴オープンスピーチは体験を交えた健康留意のおすすめ。

今回も宴会中に集合写真に名前を入れ、完成写真とともにお渡しするという名前忘れ防止サービスは好評継続。

傘寿でおしまいは寂しいとの声多数、会長談にも空気醸成あればまたもあり、それを受け「それではまたね」の田口氏一本締めで閉会したのでした。（柴田 義弘 記）



昭和42年卒同期会（四二会）

四二会開催の案内状には午後6時開会とあるのだが、今回の会場一番乗りは午後4時半。まだ5時前だというのに続々と参加者たちが集まり受け付け前にはちょっとした行列ができた。集合時間が年々早くなっている。

9月5日、協働大町ビルに66人の同期が集合した。本番が始まるまでの間、参加者たちは県外から駆けつけた9人も交えて満面に笑みを浮かべながら話に夢中だった。友との再会が皆、待ち遠しくうれしいのだ。四二会は物故者への黙とう、校歌の斉唱でスタート。高らかに乾杯の杯を挙げると、会場は堰を切ったように再び大きな話し声と笑いに包まれた。地域活動、趣味や旅行など多彩な話題で盛り上がるほどに美酒は心地よく体にしみた。締めくくりは校友会歌の大合唱、来年もまたここで会おうと誓って散会した。（石井 仁 記）



❷原稿の最後に執筆者名（支部等にあっては卒業年次も）をお忘れなく。
❸投稿いただいた原稿、写真はお返しできません。どうぞご了承ください。〈広報委員会〉

昭和56年卒同期会

昭和56年同期会は、8月15日（土）、昼は佐竹史料館見学（13名参加）、夜はホテルメトロポリタン秋田（75名参加）での懇親会という2部構成で、開催されました。

故人への黙とうで会は始まりました。前回はコロナ禍での「還暦の祝い」を兼ねての開催でした。パーティションがある4年前とは違い、今回は心置きなく「普通」を満喫。幹事さんに感謝しつつ、でもそっちのけで楽しみました。各クラスから一人ずつの近況報告がありましたが、ほとんどBGM化してしまうような盛り上がり。

根本君の中締めの前の「一節ご披露」にもうひと盛り上がり。これからの人生は「出会い」より「別れ」が多くなる、と言います。新しい「出会い」は少ないかもしれませんが、同期との再びの「出会い」ができた会でした。円陣を組み、校歌を5番まで歌い、散会。「同期っていいもんだな」とつくづく思いました。次回は3年後を予定しております。

（嵯峨 恵 記）



昭和63年卒同期会

1月2日（金）、秋田キャッスルホテルにて昭和63年3月卒の同期会を開催。平成10年以来の開催となったが、同窓会事務局の協力とSNS活用の成果で、総勢101名が集結。恩師は船木賢咲先生、神居隆先生、ギタ・ユセフィアン先生の3名がご臨席。京都からお越しのギタ先生より「最初の教え子で思い出深い」との挨拶をいただき、開宴。

歓談中のクラス・部活での撮影会では、ステージメンバーの入れ替わり立ち代わりの登壇に終始笑顔と歓声に包まれた。校歌斉唱にて一次会を締めるも、勢いはそのままほぼ全員が別フロアの二次会へ。三次会は分散したものの、雪の秋田を旧友と存分に堪能。次回「還暦会」での再会に向け、健康と連絡の維持を誓い散会となった。

（長野 弘志 記）



昭和52年卒同期会

9月6日（日）ホテルメトロポリタン秋田にて12回目の昭和52年卒同期会を開催しました。今回は22名の県外参加者を迎えて62名の同期が集いました。司会の山添匠君の進行で幹事挨拶、物故者に黙祷の後、乾杯は長らくスペイン在住だった野島正彦君の音頭で開宴となりました。

今年は卒業して50年となり互いの近況や昔の思い出話で盛り上がったところで、入学同期の西山玲子さんの発案で秋高祭のテーマ曲「岬めぐり」を歌い、渡部明君のリードで校歌斉唱。最後は昨年米国から帰国して初参加の山本裕高君の中締めでお開きとなりましたが、話し尽きない面々は2次会会場でテーブルを囲みさらに旧交を温めました。写真集はいつものように加藤史子さんに作っていただきました。次回は2年後でいよいよ70歳を迎えますが元気な姿で再会したいと思います。

（池田 匠 記）



昭和53年卒同期会

「最近の話題は親の介護と自分の服用薬」

今回は8月14日秋田キャッスルホテルにおいて開催された。会場には恩師である川口百合子先生、柴田義弘先生をお迎えし、60人の同期生が集い半世紀近い歳月を経ても変わらぬ友情を確かめ合った。記念写真撮影後、水澤彰人氏の進行により物故者への黙とう、校歌斉唱そして亀井哲夫年次代表挨拶と進み、川口先生の乾杯のご発声をいただいた後、懐かしい学び舎での思い出や現在の活躍が語られ、終始笑顔の絶えない会となった。中でもクラス対抗近況報告合戦は圧巻であった。司会の制御もままならず、まさに奇跡の前期高齢者と思わせるパワーが発散された。

次回はいよいよ「古希祝」。今後も母校の発展と同期の健康を祈念し散会した。

（詠み人知らず）



「つどい」投稿について

❶「つどい」欄への投稿は毎回多数にのぼるため、スペースの制約からやむを得ず、原稿を短縮したり次号に回すことがあります。**原稿は概ね350字**を目途にお願いします。

Essay

秋田の町について思うこと

日本博物館協会会長・千葉市美術館館長　**山梨絵美子**
（昭和52年卒・旧姓 榊田）



やまなし・えみこ/日本博物館協会会長。千葉市美術館館長。秋田市生まれ。東京大学文学部美術史学科卒業、同大学院博士課程後期美術史専攻単位取得中退。専門は日本近代美術史。1984年東京国立文化財研究所（現：国立文化財機構東京文化財研究所）研究員。2021年同所副所長を定年退職。2022年全国美術館会議理事。著書に『黒田清輝《智・感・情》』ほか多数。

大学進学のために秋田を出てから半世紀近くたつ。その後、秋田の町は都市化が進み、駅舎も新しくなり、駅前にあった金座街がなくなって、大規模な商業施設に変わったほか、一九七〇年代の広小路、通町、川反、大町といった旧市内のにぎわいが、秋田駅東口開発ほかの町の拡大によって、他地域にも移っているように思う。

変化しつつも歴史の痕跡が蓄積されている町には趣がある。高度成長期、科学と技術の進歩によって高層ビルが次々に建てられ、戦前までの建物が壊されていく中で、スクラップ・アンド・ビルドを是とする考え方に警鐘を鳴らす動きが日本近代建築史家を中心として高まった。

町の風格や地域の魅力は歴史の痕跡によってつくられるものであるという理解が広まり、将来、文化財と価値づけられる可能性のある建造物は登録文化財として保護対象とする国の制度が出来て、日本各地の戦前の名建築の保存・活用につながった。また、近年は丹下健三ほか戦後に活躍し、世界でも評価を得た建築家たちの作品をも長く残そうとする意識が生まれている。

秋田も冒頭に述べたように変わってきてはいても、赤レンガ郷土館（旧秋田銀行本店）のような魅力的な近代建築や、各種の商家のにぎわいを思わせる通町の金子家住宅などが残され、活用されている上に、江戸時代の城跡で太平山を望む千秋公園を中心に、文化施設のまとまった区域があり、歴史と文化が感じられるのが魅力的だ。

千秋公園内にあった秋田市立美術館がアトリオンに移転して秋田市千秋美術館に、中土橋を渡った右側にあった秋田県立美術館・平野政吉美術館が移転して安藤忠雄設計の秋田県立美術館になり、県民会館はミルハスに生まれ変わった。佐竹史料館も令和7年にリニューアルオープン、秋田県立美術館の移転前の建物が秋田市に移管されて文化創造館として保存・活用されているのも、秋田の博物館・美術館の歴史として重要である。私にとって、この建物は、藤田嗣治をはじめ、ピカソ、マティスらの作品と初めて出会った場所であり、館内にあった館長室で平野政吉氏に藤田のことやご所蔵の秋田蘭画の話を伺った思い出の場所でもある。移転はしたものの、藤田の「秋田の行事」の前に立つと、そうした思い出とともに「帰ってきた」という思いに浸る。

そうした意味で、博物館や美術館はその土地の記憶のよりどころであるとともに、次世代・次々世代の人々へのメッセージを込めた贈り物でもあって、私自身もその恩恵に浴していると感じる。デジタル時代が進んでも、人間に体がある限り、先人が直接に触れた文書や道具、創意工夫や美の産物が、これからも人々に生きる力や安らぎの源になるに違いない。秋田の町の魅力が未来までも伝えられていくよう願っている。



金子家住宅



佐竹史料館



「STORY」2026年1月号/光文社

北雄の翼 2026

２０１８年にスタートした海外研修「北雄の翼」を今年も実施し、同窓会のご支援のもと37名の生徒がボストンへ渡航しました。午前中は他国生とのディスカッションやプレゼンテーションを交えた英語トレーニング、午後はマサチューセッツ工科大学やハーバード大学などの世界最高峰の教育機関を訪問しました。さらに、フレッチャースクールに在学中の方との懇談や現地で活躍されている方からの講話、他国生との異文化交流を通じ、日本では得られない貴重な学びを得ることができました。渡航初日にトロントからの便が欠航し、急遽トロント市内研修へ変更となるトラブルもありましたが、生徒たちは冷静に対応し前向きに取り組んでいました。本研修で得た経験や新たな課題、仲間との絆を胸に、帰国後もそれぞれの目標に向かって挑戦を続けています。

参加生徒の感想

２Ａ　宮里（みやさと）　華音（かのん）

自立心を養い実践英語への苦手意識を克服するため本研修に挑戦した。

カナダでの欠航トラブルで入国審査を受けた際は、生徒だけで乗り越える必要があった。表現が思いつかないもどかしさや慣れない単語の聞き取りに苦戦しながらも生徒同士で表現を吟味して伝えることができた。

授業では文法を意識する余り発言できない場面もあったが、文法が違っても果敢に発言する他国生徒の姿に刺激を受け、正確さに縛られていては受身の学習のままだと実感した。

様々な挫折に直面したからこそ、机上の学習では得られない実践的な対応力と視野の広がりを得られた。また、異なる環境や文化の魅力に触れたことで国際関係学への関心が一層深まった。今後も日常の些細な気づきから多くのことを吸収できるよう貪欲な姿勢で学び続けていきたい。

２Ｂ　高橋（たかはし）　穂（すい）

初日からボストンに着けずカナダで一泊するトラブルがあったものの、カナダの素敵な街並みを見ることができ、それも良い思い出となった。初めのうちは外国の方になかなか話しかけることができなかったが、頑張っている友達の姿に背中を押され、自分から積極的に声をかけられるようになった。

多くの人と出会う中で、日本の漫画が好きな方々とも話すことができ、日本人として誇らしく感じた。特に、アルゼンチンの方々と一緒にサッカーをしたことが印象に残っている。言葉が通じなくても、サッカーが共通言語となり、心を通わせることができたように思う。それでもやはり、もっと深く相手のことを知るには自分の英語力を鍛える必要があると感じた。大学では長期留学に行きたいと考えているのでそこに向け、英語の学習を継続していきたい。

最後に、このような貴重な経験ができたのは同窓会の皆様、添乗員のお二人をはじめ、先生方、家族、そして一緒に切磋琢磨した友人たちのおかげです。ありがとうございました。



日　程	都市・施設	概　要
7月5日(日)	秋田空港	秋田空港集合／出発式
6日(月)	トロント	トロント市内研修　(トロント泊)
7日(火) ～ 10日(金)	ボストン (タフツ大学寮滞在)	語学学校アクティビティ：プレイスメントテスト オリエンテーション　英語クラス (他国生との合同クラス) MIT訪問／キャンパスツアー タフツ大学「フレッチャースクール」 (日本人留学生との懇談)
		修了証授与 ハーバード大学訪問／キャンパスツアー
11日(土)	ボストン	ボストン市内　班別自主研修　帰路(機内泊)
13日(月)	秋田空港	秋田空港着／解散

文武両道

～全国の舞台で活躍～

男子5位、女子7位（過去最高）インターハイを終えて

山岳部　主将　黒沢（くろさわ）理央（りお）



インターハイ優勝を本気で目指して活動してきた日々は、とにかく充実していました。朝昼は部室で天気図を描き、放課後は設営練習と徹底的な体力づくり。帰宅後も概念図を作成し、夜遅くまで地図を読み込むなど、それぞれに必要な力や技術を身につけていく毎日でした。

兵庫県（氷ノ山・鉢伏山・蘇武岳）で行われた今年度のインターハイ。県外の山への期待を膨らませたのも束の間、想像以上の暑さや鉢伏山での強い日差しに体力を奪われ、絶景を前にしても不安が募るばかりでした。迎えた本番。初日の設営審査でトラブルがありましたが、冷静に対処し、2日目も余裕を持って通過できました。しかし、鉢伏山で行動の変更やコース短縮、蘇武岳への山行の中止が決定。全力を出し切りたい気持ちを残したまま、最後の大会は幕を閉じました。

結果、男子は5位入賞、女子は過去最高順位の7位。悔しさと応援してくださった方々への申し訳なさで涙が込み上げ、直後のやるせなさは1ヵ月以上経った今でも思い返します。しかし、無念は自分たちでは晴らせません。残された時間でやるべきことは、後輩たちが同じ失敗をしないよう、培った技術と知識を継承することだと強く感じています。

山岳部で仲間と共に積み重ねてきた経験や努力は、これから先の未来へと続く道を歩ききるための装備や体力のようなものだと信じています。私たちの人生という縦走は、ここからが本番です。支えてくださったすべての方々への感謝を心のザックに詰め込んで、これからも力強く前を向いて歩んでいきます。

全県優勝男子団体 13年ぶりの頂点

柔道部　主将　杉山（すぎやま）勇人（はやと）



先輩達が引退し新チームになってから県総体まで、秋田工業高校、能代高校には連敗を喫していました。4月の横手市での大会では3位に入ることもできず、5月の中央支部総体では秋田工業高校に1対3と、全県優勝には長い距離がありました。そこから約1ヶ月、死に物狂いで練習し、迎えた県総体。準決勝で秋田工業高校、決勝で能代高校という厳しい組み合わせでしたが、それぞれの役割をきっちりと果たすことができ、両校とも破り、13年ぶりに秋田県の頂点に立つことができました。

全県総体から2週間後の東北大会では団体戦で第5位と、小兵軍団ながら健闘しました。約1ヶ月半後の和歌山インターハイに向けて、朝のグラウンドでのランドレ、放課後の柔道とウェイトトレーニング、夏休みの2部練など、厳しい練習を乗り越えてチームの結束力をより強め、非常に良い形でインターハイに向かいました。

インターハイ会場には全国の猛者たちが集まり、団体戦のインターハイは初めてだったのでとても緊張しました。福井県代表の福井工大福井高校と対戦しました。相手は全員僕たちよりも大きく、僕の相手はモンゴル人で名前も顔も身体も厳つく、この僕でさえ少しビビりましたが、それよりもっと厳つくおっかない先生にいつも指導を受けているため大丈夫でした。

一人ひとりが全力を出して戦いましたが、結果としては1対4で初戦で敗れてしまいました。しかし、インターハイに出場するまでの過程、秋田県代表としてインターハイに出場できたことの誇りは、かけがえのないものです。ここまで来ることができたのはここまで諦めず、ともに頑張ってきた仲間、柔道や生活面も指導して下さる監督やコーチ、様々な面で力を貸していただいた部長、練習で胸を貸していただいた秋大生、1番近くで支えて下さった保護者、後輩を信じて応援してくださ

るOB・OGの方々など、全ての方々の力あってのことです。心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

僕は個人戦にも出場したのですがベスト16でした。目標にはあと一歩届きませんでした。大学ではよりレベルの高い環境で死に物狂いで練習し、日本一を目指して頑張りたいと思います。

あきた総文祭、奨励賞受賞
問いを深めて

生物部　副部長　目黒（めぐろ）ことみ

生物部では、いくつかの研究班に分かれ、微生物を用いながら、自分たちで仮説を立て、研究に取り組んでいます。私たちPFAS研究班が研究を始めたきっかけは、秋田県内で基準値を超えるPFASが検出されたことでした。PFASは、さまざまな産業分野で利用されてきた一方、環境中で分解されにくく、蓄積する性質などが問題となっており、人体や環境への影響が懸念されている化学物質群です。高校2年次、私たちはこの問題を科学的に明らかにしたいと考えました。

最初に立てた問いは、「PFASは遺伝子に影響を及ぼすのか」というものでした。文献調査や実験を重ねる中で、「影響があるのなら、どのような影響だろう」という新たな疑問が生まれました。そこで、影響の有無だけでなく、その仕組みにも目を向けました。さらに専門家や他校の生徒から意見をいただく中で、PFASの問題を遺伝子への影響だけで捉えてよいのか、と考えるようになりました。環境中での蓄積や生態系への影響など、異なる視点から問題を捉える必要にも気づきました。

こうして研究を深めてきた成果を、「あきた総文2026自然科学部門研究発表生物部門」で発表しました。審査の結果、全国4～8位に相当する奨励賞をいただくことができました。

研究を始めた頃には、答えを見つけることが研究だと思っていました。しかし、一つの答えが次の問いを生み、その問いを追う中で、また新たな疑問が見えてきました。問いを深めるほど新たな問いに直面する。そのことに研究の面白さを感じています。



11大会ぶり全県優勝
最高の景色

卓球部　主将　三浦（みうら）大歩（たいと）

一年前の全県総体。連覇を続けていた秋田商業に決勝で敗北し、涙を流した先輩たちの姿と自らの感じた悔しさを、今でも鮮明に覚えています。あの敗戦からの一年間、来年こそは優勝するという気持ちを持って、毎日厳しい練習に励んできました。

その努力のおかげで、今年は、十一大会ぶりとなる団体戦での全県優勝を果たすことができました。さらに個人戦のシングルスとダブルスでも優勝することができ、チームで三冠という最高の形でインターハイへの切符を掴むことができました。

インターハイでは、団体戦で目標にしていた「一勝」を挙げることができましたが、シングルス・ダブルスでは悔しい結果に終わってしまいました。しかし、全国トップレベルを肌で直接感じられたことは、これからに向けてのとても良い経験になりました。そして、自分たちの卓球が全国でも十分に通用するという、確かな手応えと大きな自信を得ることができました。この結果を出せたのは、熱心に指導してくださった先生方や、いつも僕たちを支え、応援してくださった卓球部OB会の先輩方、毎日サポートしてくれた家族、そして支え合ってきたチームメイトたちのおかげです。

全国で味わった自信と悔しさを絶対に忘れず、来年も絶対に優勝して全県連覇を達成します。そして、次は全国の舞台でもっと勝ち上がれるように、これからも仲間と共に一生懸命練習に励んでいきます。応援よろしくお願いします。





部活動による全国大会出場

令和8年度 全国高等学校総合体育大会（近畿地方開催）

柔道部
［男子団体］
杉山勇人 須藤悠希 新山功之助 髙橋隼馬 玉井直 加賀谷優希
［男子個人66kg級］
杉山勇人

卓球部
［男子学校対抗］
齊藤佑典 三上充紀 仁部琉弥 三浦大歩 加賀谷泰徳 髙橋実夢 髙橋瑠生
［男子シングルス］
仁部琉弥 齊藤佑典 三上充紀
［男子ダブルス］
齊藤佑典 三上充紀

山岳部
［男子団体］
黒沢理央 保坂智武郎 中村僚 石川康介
［女子団体］
大谷柚葉 猪股愛子 谷和心 田村有喜

ソフトテニス部
［男子個人］
佐々木伸二郎 島田大亮

バドミントン部
［女子ダブルス］
熊谷紗彩 小松由依
［男子シングルス］
横尾治樹

陸上競技部
［男子110mH］
大野忠晴

ボート部
［男子シングルスカル］
鎌田悠慎

令和8年度 国民スポーツ大会（青森県開催）

陸上競技部
［少年男子共通110mH］
大野忠晴
［少年女子A300mH］
［少年女子A100mH］
工藤優月
［少年男子B100m］
荒木陽真

ボート部
［男子ダブルスカル］
鎌田悠慎

第50回 全国高等学校総合文化祭（秋田県開催）

放送部
［アナウンス部門］
工藤光璃 松橋優奈 高田一輝
［ビデオメッセージ部門］
黒子稜太 田原理央 板倉慶宗 福田万結

書道部
竹村心那

囲碁部
［団体戦A］
渡辺太陽 土門真鳳 千葉希星
［団体戦B］
須田凛太 佐々美桜 石井樹愛

将棋部
［個人戦］
山口秀明 山本真一郎 新妻大空

文芸部
［短歌部門］
真壁悠花
［散文部門］
小松青葉

弁論部
青池美依

自然科学部
［研究発表 生物部門］
佐藤菜々子 目黒ことみ 平川明奈 工藤志乃佳
［地学部門］
加賀谷真太郎 湯瀬胡春 田口心美 金澤凛咲
［ポスター発表］
湊悠介 髙野莉央

全国大会（その他）

柔道部
2026年度全日本ジュニア柔道体重別選手権大会
［男子66kg級］
杉山勇人

放送特別委員会
第73回NHK杯全国高校放送コンテスト
［アナウンス部門］
工藤光璃 松橋優奈
［ラジオドキュメント部門］
松橋優奈
［テレビドキュメント部門］
工藤光璃
［研究発表部門］
黒子稜太 高田一輝

囲碁部
第50回文部科学大臣杯全国高等学校囲碁選手権大会
［男子団体］
渡辺太陽 土門真鳳 須田凛太
［女子団体］
千葉希星 佐々美桜 市川ゆりな
［男子個人］
渡辺太陽 土門真鳳
［女子個人］
千葉希星 佐々美桜

美術部
第100回記念国展
［絵画の部］
山田蓮人 渡辺杏

■マスターズ甲子園出場

全国の高校野球OB・OG共通の憧れであり、野球の原点でもあった甲子園を目指す大会。秋田県予選は、この夏、潟上市の長沼球場で開催された（8月8日～16日）。わが矢留倶楽部は本荘10―8、鷹巣農林18―0、秋田南7―4。決勝戦は秋田商業を7―3で下し、初優勝と共に甲子園出場権を獲得した。

今大会は各選手から勝利への気迫を強く感じた。そのスイッチを入れたのが佐藤裕輝（平成16年卒）のパーフェクトピッチング。更に高校3年時コロナで大会中止となった令和3卒の選手達の活躍。甲子園での初戦は11月15日。躍動に期待。

矢留倶楽部副会長
髙橋信一記（昭和54年卒）



2026マスターズ甲子園秋田県大会
初優勝の矢留倶楽部

長岐法律事務所
弁護士 長岐 和行（昭和47年卒）
弁護士 長岐 和恵（平成19年卒）
〒010-0951 秋田市山王6-17-22
TEL.018-824-6363
（秋田弁護士会所属）

弁護士法人
廣嶋法律事務所
弁護士 廣嶋 清則（昭和38年卒）
弁護士 石田 英憲（平成元年卒）
弁護士 田中 豪（平成19年卒）
〒010-0951 秋田市山王7丁目7番1号
TEL. 018(863)7215 FAX. 018(864)7395
URL：https://hiroshima-lawfirm.com/

白くま カウンセリング
SHIROKUMA COUNSELING
認知行動療法が受けられるオンライン相談
主宰・監修 藤井 靖（平成9年卒）

かず歯科クリニック
院長
長谷川 和弘
（平成9年卒）
〒010-0041 秋田市広面字昼寝23-2
TEL 018-853-8211
FAX 018-853-8212
www.kazusikaclinic.jp

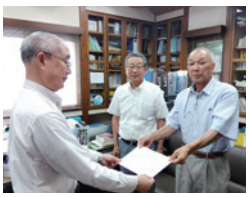
同窓会活動へ長年の寄付 昭和42年卒同期会に感謝

昭和42年卒同期会より、今年も同窓会活動へ役立ててほしいと寄付をいただきました。

昭和42年卒年次代表の大久保正樹氏と理事の金子真悟氏が、7月23日同窓会会館の事務局を訪れ、佐藤悦紹事務局長に目録を手渡しました。寄付金は同窓会基金に十万円教育振興基金に十万円の合計二十万円。

同学年同期会の寄付は令和3年から続けられており今年で6年目。令和5年は母校に電子黒板3台（百万円相当）等、これまでに総額二百万円相当の寄付をいただいております。

感謝申し上げます。



寄付金目録贈呈　昭和42年卒同期会　大久保正樹代表(右)と金子真悟理事(中央)

同窓会名簿管理について（お知らせ）

名簿や個人情報の流出は、昨今自治体や企業等の単なる管理ミスに留まらず、深刻な犯罪被害につながる社会問題となっています。

秋田高校同窓会では5年に一度、同窓会名簿を制作・発行しておりますが、その管理システムはオフラインです。インターネット、メール配信等には一切接続しておりませんので、危険なサイバー攻撃にも無縁です。その点はご安心ください。

古い名簿の処分方法については、下段に記載しておりますのでご確認を。

同窓会名簿は、母校と同窓生や同期生をつなぐ大事な存在です。次回は2年後の制作を予定しております。

（名簿委員会）

哀悼

謹んでご冥福をお祈り申し上げます

敬称は省略させていただきました

令和4年
11月 田中 幸雄（昭35）

令和6年
5月 伊藤 征司（昭36）
6月 松橋 佚秋（昭31）
11月 木元 宏明（昭31）

令和7年
1月 高橋 洋行（昭49）
4月 須磨洋次郎（昭36）
6月 鷹谷 信雄（昭14）
8月 齊藤 周光（昭36）
9月 池田 邦彦（昭37）
11月 佐藤 聡子（平4）
相沢 幸悦（昭44）
佐藤 浩（昭35）
12月 斎藤 易子（昭35）

令和8年
1月 鈴木 久彰（昭52）
高橋 俊哉（昭32）
荻原 一晃（昭23）
佐藤 次二（昭35）
板垣宏一郎（昭39）
寺門 卓（昭44）
2月 花巻 武（昭34）
高階 幸道（昭30）
藤岡 洋介（昭35）
田宮 忠（昭32）
板倉 義雄（昭34）
牛丸 武久（昭37）
栗林 弘（昭32）
早川 和義（昭30）
3月 田村 俊哉（昭56）
藤原 充（昭42）
4月 櫻田 隆（昭42）
相田 和彦（昭29）
伊藤 嘉昭（昭38）

目黒邦太郎（昭34）
伊藤 芳美（昭26）
佐藤 真悦（昭37）
金澤 憲雄（昭42）
古田 幹彦（昭50）
伊東十三男（昭34定）
丹生 光晟（昭26定）
松岡 正樹（昭30）
佐藤 勇太（昭30）
豊永 高徳（昭40）
吉田 雅宏（昭38）
吉田 勝時（昭45）
寺田 恵子（昭45）
田宮 鐵男（昭30）
村井 正芳（昭36）
石川久米夫（昭33）
三浦 利治（昭28）
5月
千釜 文夫（昭28）
石川 琇一（昭39）
布川 剛（昭38）
舘山 茂雄（昭44）
保坂 良裕（昭53）
糟谷麟次郎（昭25）
藤原 貢（昭25）
佐々木 弘（昭40通）
伊藤 誠（昭32）
堀井 正清（昭43）
菅原 実（昭44）
鎌田 勲（昭33）
工藤 弘道（昭38）
仲村 征男（昭36）
湯沢 弘秋（昭39）
岸部 有三（昭40）
金井 和正（昭45）
永井 侃（昭37）
白澤 豊美（昭41）
渡辺 雄一（昭48）
熊谷 泰和（昭34）

庄司 浩（昭45）
高橋 文夫（昭31）
渡辺 慶治（昭42）
板澤 豊彦（昭35）
山上紘太郎（昭39）
菅原 佳典（昭40）
沓澤 健吉（昭28）
熊谷 弘（昭28定）
竹内 陸郎（昭25）
澤田石隆夫（昭48）
日野 幹雄（昭26）
8月
松永 俊一（昭32定）
栗田 善成（昭32）
伊藤 栄二（昭47）
安藤 幸男（昭31）
佐藤 公（昭39）
京屋 陽一（昭28）
伊藤登美雄（昭35）
小松 文雄（昭25）
小林 正行（昭46）
松由 俊次（昭34）
佐藤 諄三（昭27）
石崎 利巳（昭47）
鎌田 昭助（昭27）
9月
佐藤 洸（昭39）
池田 徹（昭42）
瀧澤 一（昭27）
中泉 俊尭（昭33）
高橋 志郎（昭50）
工藤 充（昭22）
松山 眞（昭36）
石塚 英馬（昭41）
井筒 實（昭33）
菅原 寛治（昭23）
佐藤賢太郎（昭32）
池田 新三（昭35）

年会費納入のお願い

同窓会運営にご協力ください

日頃から同窓会活動に深いご理解とご協力を賜り、心より厚くお礼申し上げます。円滑な同窓会活動を推進するため 年会費納入にご協力を賜りますようお願い申し上げます。会員一人当たり2,000円。卒業後4年間は納入を免除。（今年度から令和8年卒以降は5年間免除。）

会員情報の更新　名簿の廃棄について

同封の「会員情報連絡票」のほか、同窓会HPのフォーム、メール等で最新の住所の登録をお願いします。

古い同窓会名簿の処分の際には、個人情報を悪用されないようご注意ください。宅配便で事務局に送付（発払い）いただければ適切に処分いたします。

同窓会の会費について

［主な使途］

2,000円の年会費は、同窓会だよりの発行、母校生徒への支援、年次同期会への補助、支部活動への支援に使われます。

［納入方法］

○**郵便振り込み**　払込取扱票

○**オンライン入金**

同窓会のホームページからクレジットカード、銀行振り込みでのお支払いもできます。未納分を含めた複数年分のお支払いもできます。

○**スマホアプリ決済**

ゆうちょPAY、楽天銀行コンビニ支払いサービス、ファミペイ、PayB等のアプリが利用可能です。（PayPayはご利用できません）

○**口座自動振替**

口座振替の新規募集は年一回です。振替口座の変更や新規申込は事務局にお知らせください。

同期会や支部総会などの記念品としてご活用ください

同窓会オリジナルグッズ

グッズの売り上げは全て生徒の教育振興に充てています

カラー版　セピア版



同窓会館『羽城館』で購入できます
FAX・Eメールでも受付中

◆クリアファイル
各100円



赤：敬天愛人理想を高く
青：おのれを修めて世のためつくす
黒：汝、何のためにそこにありや

◆フリクションボールペン（3本セット）
校章・文字入り　ケース入り
800円



◆マフラータオル　2,000円（生徒は1,500円）

事務局通信

同窓会では会員サービスとして、同期会・支部総会や部活OB会開催案内の宛名印刷や郵便物の割安な発送代行も行っています。案内文書を同窓会だよりに同封して発送する便宜も図っています。コピー感覚で使用できる軽印刷機も実費で利用できます。

各種サービスのご利用は事務局までお気軽にご相談ください。

同窓会だよりの入札（お知らせ）

広報委員会では、来年度以降の「同窓会だより」（次回5月予定）の印刷業者選定のための入札を実施します。詳しくは後日、同窓会ホームページでご案内します。

なお、参加資格は、役員または当同窓会の営業担当者が秋田高校の卒業生であること。秋田県内に本社か支店、営業所等を置き、編集作業等に遅滞なく対応できる態勢を整えていることを必須条件とします。

編集後記

同窓会だより第120号の節目。創立百周年を機に創刊されてから50年になります。紙面のマンネリ化防止のため、常置委員会としては初めて広報委員会が輪番制を導入（任期3年総入替制・3世代3学年から選出）。4巡目の新体制の目標は「情報量を増やし、読みやすく、親しみやすく、時代に合わせた」紙面づくり。先輩後輩諸氏のご活躍と現役の青春群像を組み合わせて元気な話題を発信します。求む情報提供。同窓会事務局まで。

広報委員会新体制（輪番制　委員長以下全員新任）

副会長	辻　良之	（昭和50年卒）
委員長	大友　直	（昭和57年卒）
副委員長	保坂尚吾	（昭和55年卒）
副委員長	保坂恵美子	（昭和56年卒）
委員	河村希典	（平成2年卒）
委員	遠藤義隆	（平成2年卒）
委員	加藤　悟	（平成3年卒）
委員	鈴木孝友	（平成4年卒）
委員	小助川充崇	（平成12年卒）
委員	中嶋結也	（平成14年卒）
学校委員	一関修二	（平成1年卒）
学校委員	菊地達八	（平成21年卒）

ISHIWADA
有限会社 石和田自動車
専務取締役 石和田　圭（平成9年卒）
秋田市新屋大川町19-18
TEL.018-828-3037㈹　FAX.018-828-2575
フリーダイヤル 0120-28-3037
http://www.ishiwada.com

SUZUKI
株式会社 秋田スズキ
代表取締役会長 石黒寿佐夫（昭和45年卒）
代表取締役社長 石黒佐太朗（平成9年卒）
〒010-0967　秋田市高陽幸町16番16号
TEL.018-823-4211㈹　FAX.018-864-5218

医療法人 恭光会 わだクリニック 内科
WADA CLINIC
理事長 和田　博（昭和62年卒）
〒011-0901 秋田市寺内字三千刈86-3
TEL. 018−896−5560

山崎ピアノ教室
ピアノ演奏・指導
ピアニスト
山崎圭子（昭和62年卒）
〒010-0911
秋田県秋田市保戸野すわ町15-40
TEL 090-2279-6293
E-mail : yamakei19690324@icloud.com

<表紙写真>
秋・学校中庭
金 敬子先生（平成1年卒）撮影

発行者／秋田県立秋田高等学校同窓会　秋田市手形字中台1番地
電話 018−832−9553　FAX 018−832−9588
印　刷／秋田協同印刷株式会社